〈幼稚園教育〉

幼児が協同して遊ぶようになるための環境構成と援助の工夫
～思いを伝え合い友達とかかわる遊びを通して～

南風原町立北丘幼稚園教諭　**国　吉　亜　矢**

Ⅰ　テーマ設定の理由

近年，少子化，核家族化，社会の情報化等の変化に伴い，子ども達を取り巻く環境は大きく変化し，地域で安心して遊べる場や，異年齢での子ども同士がかかわって遊ぶ機会が減少し，テレビ視聴やゲーム等の室内での遊びが増えていると言われている。このようなことから，他者とのかかわりが減少し，自己をコントロールする力が弱くなった等，人とかかわる力の育ちに大きく影響を及ぼしている。

幼稚園教育要領解説（以下「要領解説」と表記する）「人間関係」の領域，内容の取り扱い(3)では，「幼児が互いにかかわりを深め，協同して遊ぶようになるため，自ら行動する力を育てるようにするとともに，他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。」と示されている。幼児が，人とかかわる力を身につけていく機会が失われつつある現状を踏まえ，集団生活の場において，友達と楽しく活動する中で共通の目的の実現を目指して，試行錯誤したり，いざこざや葛藤を乗り越えたりしていく，協同して物事に取り組む経験を積み重ねることは重要であると考える。

本園の幼児の実態を見てみると，入園前に集団生活を経験したことがある幼児が 87%と多く，また，降園後も園の預かり保育を利用している幼児が 77%で，友達とかかわる経験をしていたと考える。しかし，気の合う友達と一緒に遊びを進める幼児がいる中で，友達と一緒に遊びたいけれど，どういう風にかかわっていけばよいのか分からず困っている幼児や，自分の思いを伝え，相手の思いも受け止めながら遊びを進めることが苦手な幼児の姿も見られる等，人とのかかわり方に課題が見られる。

これまでの私の保育実践を振り返ってみると，幼児同士がかかわりながら遊べるよう環境構成を工夫したり，見直したりしてきた。しかし，今第Ⅲ期の伝え合う発達過程の時期なのに，なぜ友達と一緒にかかわって遊びを進めることが充分に取り組めていないのだろうかと現状の課題にだけ注目し，個人差があることを考えずに解決を図ろうとしていた。その為，その時期までに通過すべき発達過程を通過していない幼児への手立てが十分になされておらず，一人一人が遊びに夢中になって没頭できるような遊び環境の工夫と，自分の思いを伝え，相手の思いを受け止めながら遊びを展開していけるような援助の工夫が足りなかったと考える。

「幼児一人一人の特性に応じ，発達の課題に即した指導を行うようにすること」と要領解説でも重視されていることから，幼児一人一人の発達過程に着目しながら理解を深め，幼児の発達に即して，一人一人に必要な体験が得られるようにしていくことで，幼児が友達と協同する経験を十分に重ねていくことができ，人とかかわる力が育つと考える。そこで，思いを伝え合い友達とかかわる遊びを通して，幼児が協同して遊べるようになるための環境構成や援助の工夫を探っていきたいと考え本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

幼児が思いを伝え合い，友達とかかわる遊びを通して，協同して遊べるようになるための環境構成や援助の工夫を探る。

Ⅲ　研究の方法

1　幼児理解と課題の分析
2　各期の発達過程の振り返り
3　幼児が協同して遊ぶことができるような環境構成と援助の工夫

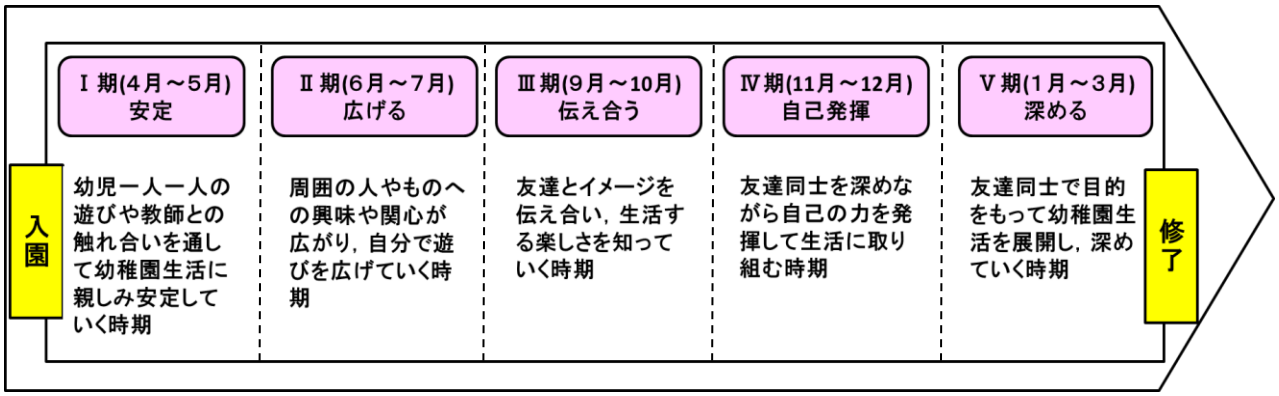
Ⅳ　研究内容

１　幼児の発達の捉えとは

要領解説によると,「幼稚園においては，幼児期の発達の特性を十分に理解して，幼児の発達の実情に即応した教育を行うことが大切である」と，幼児期の発達の特性を踏まえ，入園から修了までの発達の見通しをもち（**表１**），きめ細やかなかかわりをしていくことが重要であると示されている。このように，幼児の発達を長期的に捉えどの時期に何をどのような方法で身に付けていくかという適時性を考えていくことは，幼児の望ましい発達を促す上で大切なことであると考える。

表１　本園（１年保育）における幼児の発達の過程と期の捉え

《幼稚園教育要領解説参照》



大方の幼児がその期の発達を通過したら次の期へ移行していくのが発達の見極めであるが，発達の通過過程には個人差があることを踏まえ，一人一人の幼児に応じた対応が必要であると考える。その期での課題をしっかり分析し，通過していない発達過程に戻して丁寧にかかわりながら通過させる事で，次の期へ無理なく移行することができると考える。そこで，本園の幼児の実態から，幼児の発達の過程を捉えてみた（**表２**）。

表２　Ⅰ期～Ⅱ期（４月～７月）の幼児の姿（園児 25 名）

幼児の実態	分析
・自分の思いを表現出来ない。 ・自分の思いを伝え相手の思いを受け止めながら遊びを進めていくことが苦手である。 ・友達と遊ぶ中で嫌な事があると乱暴な言葉遣いをしたり，嫌な態度を示してしまう。	・主体的に「自分はこうやるんだ」と自信や遊びのこだわりをもつ等，自分の思いや考えが言える遊びのため込みの不足。 ・幼児自ら興味をもって環境にかかわり，遊びに没頭する事で，充実感や満足感を味わう体験の不足。 ・相手のことが分かり合える遊びの環境構成と援助の不足。

上記の分析より，Ⅰ期（４月～５月）の安定する時期から，Ⅱ期（６月～７月）の自分で遊びを広げていく時期に，一人でじっくり遊ぶことができる環境構成が足りなかった為に，約３割の幼児が，遊びにこだわりを持ったり,その遊びの専門家としての意見が言えたりする経験が十分ではなかった。つまり，幼児一人一人について発達過程を通過しているかどうかの見極めが弱かったことがわかる。一人一人の発達の過程を読み取り，日々の保育の振り返りを通して，その子の発達の時期にあった環境構成や援助を工夫することで，無理なく次の期へ移行できるようにしていく必要があると考える。

２　協同して遊ぶとは

要領解説によると,「幼児一人一人のよさをいかしながら協同して遊ぶようになるためには，集団の中のコミュニケーションを通して共通の目的が生まれてくる過程や，幼児が試行錯誤しながらも一緒に実現に向かおうとする過程，いざこざなどの葛藤体験を乗り越えていく過程を大切に受け止めていくことが重要である」と示されている。幼児一人一人の主体性を基盤とし，他者とのかかわりの中で

関係を深めていくことで，共通の願いや目的が生まれ，それを実現しようと，自分の役目や役割を考え新しいアイデアを生みだすことになる。幼児が友達と共に遊びを進める中で，自分の思いや考えを表現し，相手との思いや考えの違いに気付いたり，いざこざや葛藤を通して相手の思いや考えを理解するようになったりする等，折り合いを付けていく経験を繰り返し味わっていくことで，人とかかわる力がはぐくまれていくと考える。教師は，幼児一人一人が自己発揮できる場や試行錯誤する時間を十分確保したり，互いの思いや考えに気付けるように仲介役となったりし，友達と一緒にやりとげた達成感や満足感を味わえるような援助をしていく必要がある。

３　折り合いをつけるとは

幼児が安定した生活の中で自己発揮して遊べるようになると，幼児同士の主張がぶつかり合い，思いや意見が違ったりと，いざこざや葛藤を体験することになる。国立教育政策研究所「幼児期から児童期への教育」(2005 年)では，「葛藤体験の中で，相手の気持ちを考えたり，自分の思いを相手に分かってもらえるように言葉で伝えることの大切さや，幼児なりに主張したり，交渉したり，譲ったり，謝ったり，許したりすることの必要性を感じ，相手のことを思いやることができるようになる」と示されている。教師は，一人一人の幼児の思いや考えを言葉にして相手に伝えられるようにしたり，どうしたらよいのか考えさせたりする等，必要に応じて仲介役としてかかわり，折り合いが付けられるようにする。そのことで，一緒に活動する幼児同士が目的を共有し，工夫したり，協力したりする楽しさを味わえるようになると考える。

４　思いを伝え合うとは

要領解説では，「幼児が友達と一緒に生活する中で，自分の思っていることを相手に伝えることができるように，また，徐々に相手にも思っていることや言いたいことがあることに気付いていくことができるようにすることが大切である。」と示されている。幼児が思いを伝えることは，心動かされる体験を通して，したことや考えたことを自分なりに表現することであると捉える。その表現の仕方は一人一人異なるため，教師は幼児の思いを読み取り，実態に応じたかかわりが必要であると考える。また，思いを伝え合うためには，自分の思いのみならず，相手の話を聞きたいという気持ちを育むことも大切であると捉える。幼児同士のやりとりを丁寧に受け止めて援助していくことは，他の幼児の思いや考えに気付くことにつながっていき，相手を知りたいという友達への関心が芽生えると考える。

幼児が思いを伝え合う中で，自分の思いを友達に伝える楽しさや喜びを実感できること，また，友達の思いや考えに気付いていくことで，共通のイメージや目的を共有し，それを実現しようと友達と協同して遊ぶ楽しさが味わえるようになるであろうと考える。

Ⅴ　研究の実際

１　検証保育（１回目　11 月）「不思議な自動販売機」

(1)　設定理由

Ⅳ期の 11 月ではあるが，Ⅱ期で見られるはずの自分で遊びを広げていく様子があまり見受けられない。そこで，通過していない発達過程に戻す必要があることを考え，幼児一人一人が興味や関心をもって遊びに取り組み，自己発揮することで，友達とかかわって遊ぶ楽しさを味わうことができるような環境構成と援助の工夫をしていきたいと考え設定した。

(2)　保育のねらい

自分なりに表現したり，工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。

(3)　検証のねらい

①　幼児が自分なりに表現したり，工夫したりできる環境構成と援助の工夫をする。

②　気の合う友達と一緒にかかわって遊びを楽しめるような環境構成と援助の工夫をする。

(4) 検証の流れ

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成★援助の工夫 △課題	検証結果
11月19日(木)	自分なりに表現したり，工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。	・自分の好きな遊びの中で，多様な素材や材料，用具等を使って表現したり，工夫したりして遊んでいる。 （折り紙，製作遊び，ダンス等） ・遊びに必要な材料を探している。	○好きな遊びにじっくり取り組める時間を確保する。 ★一人一人の様子や興味や関心のあることを読み取る。 ★遊びの中で一人一人が思い思いに表現し自己発揮できるように，個々の思いや考えを受け止めていく。 △十分に試したり工夫したりできる多様な材料とじっくり取り組める時間の確保が足りなかった。	・自動販売機やビー玉転がし台等を作り，「どうやったら自動販売機に品物がはいるのか」と，製作遊びにこだわり，箱の中に潜りこんで物を貼り付ける等，個々が夢中になって遊んでいた。
11月20日(金)	自分なりに試したり，工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。	・昨日の遊びの続きに意欲的に取り組んでいる。 ・気の合う友達と場を共有しながら，自分なりに多様な素材を使って，上手くビー玉が転がるように，工夫して製作している。 ・友達とかかわって遊ぶよりも，自分なりの遊びを楽しんでいる子もいる。	○自分なりに表現できるような，多様な素材や材料，用具を整え，じっくり取り組める時間の確保をする。 ★一人一人の様子や興味や関心のあることを読み取り，自分なりに試したり，工夫したりする姿を認めていく。 △友達とかかわって遊ぶ楽しさが味わえる等，幼児同士をつなぐ役割が十分出来ていない。	・多様な素材や材料等を用意したことで，ほとんどの幼児がすぐにやりたい活動に取り組んでいた。 ・じっくり遊びこむ中で，アイデアが生まれたり，工夫したり試したりして遊ぶ楽しさを味わっていた。
11月24日(火)	気の合う友達と，工夫して遊ぶことを楽しむ。	・自分なりに製作していた遊びが，「ビー玉ゲームに繋げてみよう」と，友達とかかわって遊んでいる。 ・同じ遊びの場にはいるが，自分なりの遊びを楽しんでいる幼児もいる。	○友達とかかわって遊べるように，それぞれ遊びのスペースを確保する。 ○個々の思いや考えを話したりできるような振り返りの場を設ける（※以下「振り返りタイム」と表記）。 ★個々の遊びを認めながら，「2人のビー玉ゲームをくっつけると，ゲームセンターみたいになりそうだね」と言葉をかけ，友達とかかわって遊ぶ楽しさが感じられるようにする。 ★振り返りタイムでは，幼児の気持ちを代弁したり，友達への思いの伝え方を知らせていく。 △個々の持っているイメージや考えを出し合って，遊べるようなコーナーを設置する等の工夫が足りない。	・個々の遊びから，友達とかかわって遊べるように援助したことで，幼児同士がつながってきた。 ・友達と一緒にかかわって遊び，「もっとこうしたほうがいいかも」と自分の思いや考えを出し合う姿も見られた。 ・振り返りタイムを設け，教師が一人一人の思いを丁寧に聞き取ったことで，自分なりの思いや考えを伝えられるようになった。
分析	幼児の姿 ・自分がやりたい遊びにじっくり取り組んでいた。 ・「もっとこうしてみよう」と，自分なりにやりたいことを表現したり，工夫したりして遊ぶ姿が見られた。 ・同じ遊びの場にいても，友達とかかわらず，一人のイメージの世界で遊んでいる幼児がいた。	**○個々の発達に応じてⅠ期，Ⅱ期，Ⅲ期で通過していない発達過程を通過できるよう活動を工夫した** ①Ⅱ期の人や物，遊びを広げる時期を通過していない幼児に対して，多様な素材や材料，用具等を整え，遊びに十分取り組める時間を保障したことで，夢中になって遊び，自分なりに表現する活動が充実できた。 ②Ⅲ期の伝え合う時期を通過していない幼児に対して，一人一人遊びこめるようにし，個々の遊びから友達とかかわって遊べるよう援助したことで，自分なりの考えが言えるようになった。 ③振り返りタイムを設ける事で，自分なりの思いや考えを伝えられるようになっている。 ④友達とかかわるより，まだ自分なりのイメージの中で，遊びを楽しんでいる。	**発達過程に即した協同する経験の捉え** ●大方の幼児 好きな遊び ↓ 教師や友達と同じ場で遊ぶ 様々な環境に出会い試す時期 **Ⅰ期：安定** **Ⅱ期：人・もの・遊びを広げる** **Ⅲ期：伝え合う**
改善点	① 共通のイメージをもって遊べるような環境構成と援助の工夫をする。 ② 個々に応じた援助をしながら，“友達と一緒に”取り組む楽しさを味わえるようにする。			

２　検証保育（２回目　12 月）「不思議な自動販売機」

(1) 設定理由

前回の検証保育では，幼児が興味や関心を持ち，じっくり遊びこむことで，自己を発揮することができるような環境構成と援助の工夫を行ってきた。その結果として，幼児が自分なりのイメージで，試したり，工夫したりして遊ぶ姿等が見られるようになった。

今回の検証保育では，幼児が互いに思いや考えを出し合い，共通のイメージをもって友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるような環境構成と援助の工夫をしていきたいと考え設定した。

(2) 保育のねらい

共通のイメージを持って友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

(3) 検証のねらい

① お互いの思いや考えを出し合いながら，共通のイメージに向かって取り組む楽しさが味わえる環境構成と援助の工夫をする。

② 友達と一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように，個々の内面を理解し，必要に応じて援助の工夫をする。

(4) 検証の流れ

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成★援助の工夫 △課題	検証結果
11月30日(月)	友達と思いや考えを出し合い，イメージを膨らませる。	・友達と一緒に，イメージしたものを多様な素材等を使って表現している。 （お店屋さん，ゲーム作り，ダンス，自動販売機作り） ・自分で表現を楽しんでいる幼児もいる。 ・明日は○○作りたいと意欲も見られる。	○自分のイメージを伝えながら遊びが展開できるように遊びのコーナーを作り，友達と一緒に取り組める環境を再構成した。 ★幼児同士で話し合う姿を見守り，イメージが共有できるように必要に応じてアイデアを提供していく。 △友達と一緒にイメージを共有して表現できる場の工夫が足りない。	・遊びのコーナーで，友達と一緒にかかわり，個々のイメージしていることを出し合いながら，遊んでいた。 ・一人で，自分なりにイメージしていることを表現して遊ぶ姿も見られたが，教師が「友達のものに活かせないかな？」と言葉掛けをすると,「自動販売機につけたい」と作った物を取り付け，他児との遊びを共有しようとしていた。
12月1日(火)	友達とイメージを共有したり，思いや考えを出し合ったりする。	・ゲーム作りでは，個々が作った作品をつなげて１つのゲームにしている。 ・自動販売機屋作りでは，本物みたいに商品が出てきてほしいと，ビー玉転がし台の遊びをヒントに，しかけを作る等こだわって製作をしている。 ・共通のイメージに向かって一緒に取り組んでいるが，「もっとこうした方がいい」「いや，この方がいい」と思いや考えが違い，トラブルも見られる。	○幼児のイメージやこだわっていることを友達と一緒に表現できるように場を設定する。（大型積み木で舞台を作る，ゲーム作りコーナー） ○振り返りタイムでは，グループで取り組んでいる良さ等を他児に紹介する。 ★共に考えたり，思いを伝えるのに困っている幼児には代弁したり，幼児の思いや言葉をつないでいく。 △互いの思いや考えに気付けるような援助が足りなかった。	・イメージを共有することができるように環境を再構成することで，友達と話し合ったり，考えたりして遊んでいた。 ・振り返りタイムでは，友達と一緒に工夫した事を話すようになった。また，友達の話を聞いて友達の思いや考えにも耳を傾けるようになった。 ・それぞれのこだわりが出てきて，イメージの違いからいざこざが起きた。

12月2日（水）	自分の思いや考えを伝え，友達の思いや考えに気付く。	・出来上がったおもちゃを使って遊びながら，「かまきりを捕まえたら50点にしよう」「うん，そうしよう」と互いに思いを伝えながら遊んでいる。 ・イメージの違いから，思いや考えが合わず，幼児同士トラブルが起こり，自分の思いが伝わらず泣く姿も見られた。 ・一人でじっくり取り組む幼児もいるが，「この看板には食べ物を書くんでしょ」「デザートも作っていたから，果物も書いていい？」と幼児なりに，自分の思いを教師に伝えていた。	○出来上がった作品を披露したり，友達と伝えあったりできる場や時間を十分に設ける。 ★一人一人の幼児なりの表現の仕方を認めていきながら，友達に自分の思いや考えを言葉にして伝えていけるようにする。 ★イメージの違いから，トラブルが起きた時は，相互の思いを受け止め，一緒に伝えていく等の仲介役となる。 ★一人一人の幼児が共通のイメージに向かって自己発揮できるようにする。 △友達と一緒に共通のイメージが実現する楽しさが味わえるような環境構成や援助が足りなかった。	・出来上がった喜びから，工夫したところを言葉で伝える姿が見られた。 ・教師が互いの話を受け入れて思いを伝えていく事で，「じゃあ○○さんがやりたいこともしていいよ」と，相手を受け入れる姿が見られ，友達と一緒に取り組むようになった。
分析	子どもの姿 ・共通のイメージをもった友達と活動し，更に遊びにこだわったり，工夫したりして遊ぶ姿が見られた。 ・共通のイメージに向かって取り組むものの，互いのイメージの違いからいざこざが起きた。しかし，教師が互いの思いを受け入れたり，代弁したりする等仲介役となってかかわると，相手の思いにも気付けるようになってきた。 ・一人でじっくり取り組む幼児も，その幼児なりに，他の幼児とのイメージを共有していた。	**○個々の発達に応じてⅡ期，Ⅲ期，で通過していない発達過程を通過できるよう活動を工夫した** ①幼児が自ら決めた遊びをじっくり取り組む事で，互いの思いや考えを出し合い，イメージを共有するようになったと考える。 ②振り返りタイムを通して，友達の思いや考えを聞いたりすることができた。友達の話を聞きながら，序々に相手の思いを受け入れようとするようになったと考える。 ③イメージの違いから，トラブルが起きても，遊びから抜けださず話合うようになった。教師が相互の思いを丁寧に受け止め，幼児と一緒に「どうしたらいいのか」時間をかけてかかわっていくことで，折り合いをつける姿が見られるようになった。教師が仲介役としての役割を果たすことで，葛藤を乗りこえていく姿があった。 ④一人で取り組む幼児へ，友達の存在を意識できるような言葉掛けを行う援助をする事で，「○○に使いたい」と友達とイメージを共有しようとする姿が見られた。教師が，個々に応じた援助をしていく事で，発達過程を次のステージへ引き上げていくきっかけになったと考える。	**発達過程に即した協同する経験の捉え** ●大方の幼児 やりたい遊び ↓ 友達と共通のイメージで遊ぶ ・自分のしたいことを集中して取り組む ・友達とかかわって遊ぶ ・葛藤体験を味わう ・相手の思いに気付き受け入れようとする 遊びが充実し，自己を楽しむ時期 **Ⅲ期：伝え合う** **Ⅳ期：自己発揮**
改善点	①　共通のイメージが実現できるような環境構成と援助の工夫をする。 ②　友達と一緒に相談したり，工夫したりして遊ぶことの楽しさを味わうことができるような環境構成と援助の工夫をする。			

3　検証保育（３回目　１月上旬）「お正月遊び」

(1)　設定理由

幼児が自己発揮して遊びこむことで，自分なりのイメージをもち，それを友達と共有して遊ぶ姿が見られるようになった。さらに，イメージの違いからいざこざが起きても，相手の思いを受け入れようとする姿も見られた。そこで今回の検証保育では，共通のイメージが実現できるように，友達と一緒に相談したり，工夫したり，出来るような環境構成と援助の工夫をしていきたいと考え設定した。

(2)　保育のねらい

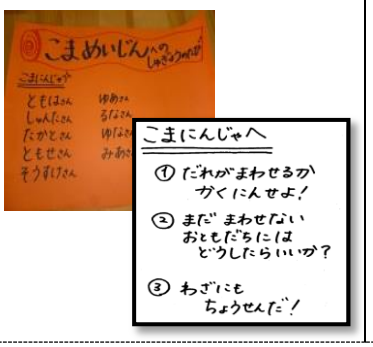
友達と一緒に遊びながら，共通のイメージを実現していく楽しさを味わう。

(3)　検証のねらい

①　友達と一緒に共通のイメージが実現できるような環境構成と援助の工夫をする。

②　お互いの思いや考えを出し合いながら，相談したり，工夫したりできる環境構成と援助の工夫をする。

(4) 検証の流れ

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成★援助の工夫 △課題	検証結果
1月12日(火)	考えや思いを言葉で伝え合いながら，正月遊び等を友達と一緒に楽しむ。	・お正月遊び(コマ回し，すごろく，福笑い，羽根つき)に興味をもち，「一緒にやろう」と友達を誘い合って一緒に取り組んでいる。 ・手作りのコマを作っている。 ・コマが回せるようになりたいと自分なりの目的に向かって取り組んでいる幼児が多い。	○お正月遊びに興味をもって取り組めるよう，同種の遊びごとに教材を分けたり，遊具の数を調整する。 ★一人一人が遊びこむ姿や，友達とかかわって遊ぶ姿を見守ったり，時には一緒に遊びの仲間となって楽しさを共有する。 △共通のイメージに向かって友達と取り組めるような場の設定や素材や道具の準備が足りない。	・ほとんどの幼児が友達と一緒にかかわり，お正月遊びを楽しんでいた。 ・友達のように上手になりたいと練習したり，互いに誘い合って競ったりしていた。
1月14日(木)	自分達でルールを決めたり，遊び方を考えたりして，遊びを進めていく楽しさを味わう。	【コマ回し】 ・「ひもの巻き方教えて」と，コマ回しの名人の友達に教えてもらっている。 ・コマ回しの技に挑戦している幼児もいる。 【すごろく】 ・どのすごろく板を使うか，サイコロを投げる順番等，自分達で相談し遊びを進めている。 ・「サイコロの４５６の目が出たらお休みね」と新しいルールを考えだして遊んでいる。 【羽根つき】 ・友達とラリーが続くように，遊具を使って一緒に練習している。 【お料理作り】 ・お正月で食べたご馳走は何だったのか友達と話し合い，ご馳走作りをしている。 ・ご馳走を入れる容器等を，探している。	○お正月遊びを友達と一緒に共通のイメージに向かって取り組めるようにグループでかかわれる場を作ったり，素材や道具を用意する。 (手作り教材:羽根つき) ★どの遊び名人になるのか，どんな名人になりたいのか具体的なイメージに向かって遊べるように，幼児同士の話し合いの際には「どんな事が出来たら名人になると思う？」等言葉かけを工夫する。 △遊びのグループで共通のイメージに向かって遊びを進めていくことは出来たが，遊びを深めていけるような環境や援助が足りなかった。	・手作り教材を作り環境を再構成したことによって，お正月遊びをより楽しむきっかけとなった。 ・“名人になるためには”という共通のイメージを持つことで，友達とかかわり，教え合ったり，技などに挑戦しようとしていた。 ・友達とかかわって遊ぶ中で，それぞれの思いや考えを出し合いながら新しいルールを生み出していた。 ・振り返りタイムでは自分達で考えた遊びやルールを他児に紹介していた。
1月15日(金)	色々な遊び方を伝え合い，友達と考えたり相談したりして遊ぶ。	・修行の巻物を友達と一緒に探し，巻物を読みながら共通の目的に向かって遊びを進めていた。 【コマ回し】 ・友達に回し方のコツを教えてもらっている。 ・大型積み木を使って自分達で遊具を作り，「この上で回せたら名人なれるんじゃない」と技に挑戦し，友達と話し合って工夫して遊んでいる。 	○友達と一緒に遊びを深めていけるように環境を再構成する。(手作り巻物，大型積み木・板・フラフープ多様な素材，空き箱等) 	・友達と共通のイメージや目的に向かって取り組めるように環境を再構成することで，自分なりの課題をもって取り組んでいた幼児も他児の遊ぶ姿を意識し，友達とかかわって遊ぶようになった。 ・出来ない人に教えたり「こうしたら落ちないでいいんじゃない」と互いの思いや考えを伝え合い，一緒に工夫していくことで，遊びが

		・「コマが落ちないように積み木の側は板で壁を作ろう」と互いのアイディアを出し合って遊びを進めている。 【すごろく】 ・男女混合ですごろく遊びをしている。 ・遊ぶ中で「人数が多くて順番が回ってくるのが遅いよ」「じゃあ２つのグループに分けよう」と，相談している。 ・「今日は１２３の目が出たらお休みね」と更に遊びが面白くなるように，工夫してルールを考えている。 【羽根つき】 ・教師も一緒に羽根つき遊びに取り組むことで，羽根をつく回数が増えラリーを楽しもうとしていた。 ・うまくいかなくても何度も挑戦している。 【お料理作り】 ・「一人２個料理を作ろう」と相談して製作遊びをしている。 ・紙粘土などを使って料理を再現しているが画用紙で作る子が多い。 ・友達と共通のイメージに向かって遊んでいるが，自分なりの表現で満足している。 ・振り返りタイムで，グループで取り組んだ事や工夫した事をみんなの前で話しをしている。	○友達とじっくり（繰り返し）取り組む時間や場所の確保をする。 ○学級で共通のイメージや目的を共有していけるように振り返りタイムを設ける。 ★一人一人が共通の目的に向かって取り組み，励んでいる姿を見逃さずタイミングよく褒めていく。時には，子ども達が遊びの“名人”となるようにし，自分達で教え合ったり友達の良さに気付けていけるようにする。 ★友達と相談し合う中で，一人一人が自分の思いや考えを出し合い，自分達で遊びに取り組んでいる姿を見守る。 ★遊びを工夫していくことで楽しくなっていることに共感しながら，必要に応じてアドバイスをしたり幼児同士を丁寧につないでいく。 ★振り返りタイムでは，互いの思いを聞き，「相手はこうだったんだ」と気付けるように，幼児の思いや伝えたいことを大切にする。 △共通の目的に向かって，友達と考えやアイデアを出し合いながら遊べるような環境が足りない。 △思いを伝え合いながら，遊びを進めていく楽しさが味わえるような援助が足りない。	どんどん面白くなっている事に気付いていた。 ・すごろく遊びでは，ルールを守って遊ぶこと等，幼児同士で確認したり話し合っていた。 ・「今日は４回ラリーができたよ。明日は５回挑戦したいです」と，一人一人が共通のイメージや目的に向かって主体的に取り組んでいた。 ・既製の遊具で十分に遊び込み，工夫していくようになった。更に遊びが面白くなるように，自分達ですごろくを作ってみたいというグループもでてきた。 ・共通のイメージに向かって取り組むものの，自分なりの考えや作り方で遊びを進めてている幼児もいる。 ・振り返りタイムでは，共通の目的に向かって遊びを進めているグループで発表するようになった。
分析	子どもの姿 ・友達とかかわって一緒にお正月遊びを取り組んでいる。 ・共通のイメージや目的に向かって一人一人が意欲的に遊んでいる。 ・友達とかかわって遊ぶ中で，「どうしたらうまくいくか」相談しながら遊び方を工夫している。 ・「○○してみよう」と遊びのルールを考えたり，遊びに必要なものを考え作ったりしている。 ・友達と共通のイメージに向かって遊びを進めているが，自分なりの表現や遊びの方法で取り組んでいる幼児もいる。 ・振り返りタイムで，グループで工夫したところを話している。	**○大方の幼児はＶ期の友達同士で目的をもって生活を展開し深めていくことに向かっている。** ①これまで，発達過程を振り返り一人一人が遊びこむ体験を積み重ねたことから，友達と“一緒に”かかわって遊びを進めていけるようになったと考える。 ②やり遂げた自信や喜びを次の挑戦のステップにし，友達と活動することの楽しさを味わっていたと考える。また，友達を認める言葉が多くなり，自信を持って話をするようになったのではないか。 ③自分のやりたい遊びに意欲的に取り組み，友達と共通のイメージで遊ぶ姿が見られるようになったが，互いの思いや考えを伝え合いながら，協力して活動に取り組むことがまだ苦手である。 ④振り返りタイムでは，グループでまとまって話をする姿が見られるようになった。また，少しずつ互いの思いや考えを受け入れて遊ぶ楽しさを学級で共有出来てきている。	**発達過程に即した協同する経験の捉え** ●大方の幼児 協同的な遊び ↓ 遊びを工夫する ルールのある遊びを楽しむ 言葉のやりとりが豊かになる ・友達と共通の目的に向かって考えを出し合いながら力を合わせて取り組む ・互いの良さを認め合いながら遊びを展開する 学び合いが出来るようになる時期 **Ｖ期：深める**
改善点	①友達と共通の目的に向かって，工夫したり，協力して遊ぶ楽しさが感じられるような環境構成と援助の工夫をする。 ②互いの思いや考えを伝え合いながら，友達と楽しく活動する楽しさが味わえるようにする。			

４　検証保育（４回目　１月下旬）「友達と一緒に」～名人への道～

(1) 設定理由

１月に入ってお正月遊び(コマ回し，羽根つき，すごろく等)に興味や関心をもって主体的に取り組み，友達と一緒に挑戦したり，教え合ったり，新しいルール等を考えたりしながらかかわる姿が見られるようになった。また，“名人になりたい”という共通のイメージや目的をもって遊びを進めていく中で，互いの思いや考えを伝え合ったり，友達と相談したりする姿も見られた。そこで今回の検証保育では，友達と共通の目的に向かって，工夫したり協力して遊ぶ楽しさが感じられるような環境構成と援助の工夫をしていきたいと考え設定した。

(2) 保育のねらい

友達と楽しく活動する中で，共通の目的に向かって，工夫したり協力したりして遊びを進めていく楽しさを味わう。

(3) 検証のねらい

①　友達と一緒に共通の目的に向かって工夫したり協力したりできる環境構成と援助の工夫をする。

②　互いの思いや考えを伝え合いながら遊びを進めていけるような環境構成と援助の工夫をする。

(4) 本時までの検証の流れ

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成★援助の工夫 △課題	検証結果
1月25日(月)	友達と一緒に考えたり相談したりして遊びを進めていく。	・様々な遊び方がわかり，友達と一緒に遊びに必要な物を自分達で工夫しながら，作ったりして遊びを進めている。 ・友達とイメージが合わず，トラブルが起きた。 ・友達と一緒にかかわって遊んだりどうやったらうまくいくか相談することもあるが，自分なりに挑戦したり工夫したりしている幼児が多い。	○友達と考えやアイデアを出し合いながら遊びに必要な物を自分達で工夫して作れるよう，材料や用具を準備しておく。(厚紙，牛乳パック，ペン，模造紙等) ★振り返りタイムでは，楽しかった事を共有したり，困った事をみんなで考えたりし，明日の遊びへつなげていく。 ★友達と一緒にかかわりながら遊べるように，幼児の様々な思いを読み取り，必要に応じてアドバイスをしたりする。 △友達と互いの思いを伝えあって遊びを進めていけるようなしかけや手立てが足りない。	・友達と一緒にかかわりながら前回では見られなかった，遊びに必要な物を自分達で作って遊びを進めていく姿が見られた。 ・トラブルが起きたが，色々な考え方があった時どうするか振り返りタイムで考える事を通して「こうしてほしい」と相手に伝えることが大切という事に気付くことができた。
1月27日(水)	友達と一緒に考えたり相談したりして遊びを進めていく。	・「こうした方がいいよ」「こんな風に切ってちょうだい」等，友達に思いや考えを伝えながら遊びを進めている。 ・遊びの中で役割を分担している。 ・コマ回しでは，勝ち負けなどの勝負を楽しんでいる。また，「台の上に乗せたら 50 点」と新しいルールも考えている。 ・友達同士で相談するが，どうやって話をしていいのか困っている幼児がいる。	○自分達で友達を誘い合って一緒に遊びを進めていけるように，教材や道具を用意する。 【コマ回し】ビニールテープで土俵を作る，手作りに必要な牛乳パックなどの材料 【レストラン】段ボール，机，画用紙等 ★振り返りタイムでは，楽しかった事を共有したり，困った事をみんなで考えたりし，明日の遊びへつなげていく。 ★友達と考えがあったり，違っていても受け入れていけるように幼児をじっくり見守ったり，思いが伝わりやすいように言葉を添えたりしていく。 ★友達と一緒に遊ぶ中で，互いのイージや考えを出し合える機会を作り，友達と共有できるようにしたり，遊び方を決めたりできるようにしていく。 △思いを伝えたくなる環境の見直しと，個々に応じた援助が足りない。	・自分達で誘い合って遊びを楽しめるよう環境を再構成したことで，やってみたいこと等を友達に伝えながら遊びを進めているようになった。 ・友達に思いを伝えることは少ないが，同じ場を共有したり，遊びを一緒に進めていくことを喜んでいた。 ・振り返りタイムでは，「こんな風に思っていたんだけど」と自分の思いと，「でも○○さんがこう言ったからやってみた」と友達と思いや考えを受け入れて遊びを進めていくことの楽しさを感じていた。

1月28日(木)	友達と共通の目的に向かって一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。	・「対戦しよう」と，友達を誘ってコマ回しの勝負をしている。 ・まだ，自分なりの目標や目的に向かってコマの技にチャレンジしている幼児もいる。 ・レストランを開いて他の遊びの幼児を招待し，かかわって遊んでいる。 ・手作りすごろくを友達と一緒に作る中で，自分の思いが友達に伝わらず，困っていた。話し合いをすることで相手の思いに気付けるようになり，互いの思いや考えを遊びに取り入れるようになった。 ・困ったことを学級のみんなに紹介し，幼児が互いの考えやアイデアを出し合い，遊びがもっと楽しくなる方法を考えている。 ・友達と一緒に活動をすることを楽しむ幼児もいるが，じっと見つめながら参加している幼児もいる。	○友達を誘い合って一緒に遊びを進めていけるように，環境を再構成する。(トーナメント表，対戦カード等) ○幼児同士が認め合い，遊びに高まりや学び合いができるように，話し合いの機会を作る。 ○振り返りタイムでは，楽しかった事を共有したり，困った事をみんなで考えたりし，明日の遊びへつなげていく。 ★幼児同士で遊びを進めていけるよう，幼児の発見や気付きに共感したり，アドバイスをしたり，遊びが発展するように刺激を与えたりする。 ★幼児同士が自分の思いを出しやすいように少人数での活動も大切にする。 △自分達で考えて遊びを進めていけるような環境が足りない。	・トーナメント表等，友達を誘って遊びが進めていけるように環境を再構成したことで，勝負したり点数を競ったりして，友達とかかわっていけるようになった。 ・友達と遊びを進めている事でトラブルも出てくるが，個々の思いを話したりできるように教師が丁寧に受け止めたり，学級のみんなで解決できるように考える場を設けたことで，自分なりの言葉で思いを表現できる幼児が多くなった。 ・友達と活動を共にしなくても，一緒の輪の中にいる事を他児も認めている。その事で“友達と一緒”を感じている。
1月29日(金) 本時	友達と共通の目的に向かって一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。	・すごろく大会の対戦表を作る等，友達と相談しながら新しい遊び方やルールを考えていた。 ・昨日の振り返りタイムで紹介された友達の考えやアイディアを遊びに取り入れていた。 【レストラン：待ち合い席を作る等】 ・友達と輪の中にいることを楽しんでいた幼児も，少しずつ友達とのかかわり方がわかり，すごろく遊びを友達と一緒に取り組めていた。 ・徐々に自分の思いや考えを友達に伝えられるようになっている。	○幼児同士が思いを伝え合って遊びを進めていけるように，コマ回しではトーナメント表等を準備する。 ★互いの思いや考えを伝え合いながら，友達と協力して遊びを進めている場面を大切にし，言葉で伝え合う喜びや楽しさを感じられるようにする。 △自己発揮出来ていること，自己抑制が出来ていることの両方認めてあげる援助が十分ではない。	・思いを伝える時に，感情的になってしまうが，繰り返し話し合う事で再度遊びを展開していけるようになった。 ・振り返りタイムで困った事をみんなに伝えることで自分達で解決して遊びを進めていく楽しさを味わっている。 ・教師の仲介役で友達とのかかわり方を考えたり，思いを伝えても大丈夫という安心感が見られた。
分析	子どもの姿 ・友達と遊びが楽しくなるために考えたり，相談したり，遊びの役割を分担したりしている。 ・「○○してほしかった」と自分の思いを伝えられるようになり，「○○の考えでいいよ」と相手の思いや考えも受け入れて遊びを進めている。 ・時間はかかったが，友達と同じ場に居る安心感から，一緒にかかわって遊べるようになった幼児もいる。	**○大方の幼児はⅤ期を通過中** ①幼児の遊ぶ姿から思いを受け止め，環境を再構成する事で，友達を誘って遊びを進めていくことができた。 ②共通の目的に向かって，互いの思いや考えを言葉で伝える事で，遊びが更に楽しくなったり，自分達で遊びを進めいているという満足感や充実感を味わっていたと考える。 ③学級で振り返りタイムを設けた事で，自分の思いを伝えたり，相手の思っていることを受け入れていく事で遊びが楽しくなってきていることを学級で共有することができた。 **○個々の発達に応じてⅣ期，で通過していない発達過程を通過できるよう活動を工夫した** ④教師が一人一人の幼児の発達を理解し，友達とかかわらせようと焦らず援助してきたことで，個々の発達に合った育ちが見られるようになった。	**発達過程に即した協同する経験の捉え** ●大方の幼児 協同的な遊び ↓ 遊びを工夫する ルールのある遊びを楽しむ 言葉のやりとりが豊かになる ・友達と共通の目的に向かって考えを出し合いながら力を合わせて取り組む ・互いの良さを認め合いながら遊びを展開する **Ⅴ期：深める**
改善点	① 互いの思いや考えを伝え合うことこ，互いの思いや考え，アイデアを受け入れていくこと（譲ること，我慢すること）で，自分達で生活や遊びを進めていく楽しさが感じられるようにする。			

5　検証保育（本時）の展開

日案　　平成 28 年 1 月 29 日（金）			南風原町立北丘幼稚園 3 組　男児 12 名　女児 13 名　　計 25 名
幼児の姿	・友達と一緒に好きな遊びに取り組み，かかわって遊びをすすめている。 ・友達と遊ぶ中でも自分なりの目的や目標に向かってチャレンジしている子もいる。 ・友達とトラブルが起きるも「〇〇してほしかった」と思いを相手に伝えられるようになっている。	ねらい	◎友達と共通の目的に向かって一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。
		内容	△自分の思いや考えを伝えたり，相手の思いや考えを受け止めたりして遊ぶ。

予想される幼児の活動	〇環境構成　　★教師の援助	教育要領の視点
7:30 〇順次登園する。 ・所持品の始末や着替えをする。	★一人一人に挨拶や言葉かけをし，迎えると共に視診を行い健康状態や朝の様子を把握する。 ★所持品の始末に時間ががかかっている子には，必要に応じて言葉かけをしていく。	健康 内容(1) 健康　内容(8) 人間関係内容(3)
8:30 〇朝の会に参加する。	★元気よく返事が出来た姿や，話を聞く態度が良い姿を認め，周りの子にも気付かせていく。	
9:00 〇好きな遊びを楽しむ。 【室内】 ・すごろく ・手作りすごろく ・手作りコマ ・レストランごっこ 【ホール】 ・コマ回し	〇友達と考えやアイデアを出し合いながら遊びに必要な物を自分達で工夫して作ったりできるよう，材料や用具を準備しておく。（トイレットペーパーの芯，模造紙，ペン等） 〇幼児同士が思いを伝え合って遊びを進めていけるように，コマ回しでは，トーナメント表等を準備する。 ★互いの思いや考えを出し合いながら，友達と協力し合って遊びを進めている場面を大切にし，言葉で伝え合う喜びや楽しさを感じられるようにする。 ★幼児が友達の思いに気付けるよう，意識して言葉をかけていく。 ★自分達で決めた取り組みやルールを作って進める中でのトラブルも，できるだけ自分達で解決の方法を見つけられるように見守る。時には，教師も一緒になって考え，解決に向かうヒントを出していく。 ★明日も遊びが引き続き楽しめるよう，子ども達と話し合いながら場を整えていく。	環境　内容(7)(8)(9) 表現　内容(7)(8) 人間関係 内容(1)(5)(7) 環境　内容(8)(9) 人間関係内容(4)(6)(7) 言葉　内容(2)(3) 人間関係内容(6)(8) 言葉　内容(3)
10:00 〇片付けをする。 ・遊具や用具を片付ける。 10:15 〇今日の遊びを学級全体で振り返える。	★振り返りタイムでは，みんなで楽しかった事等を共有できる場を設け，アイデアや意見を紹介したり明日の遊びへつながっていけるようにする。 ★幼児が伝えたい思いをくみ取り，必要に応じて言葉を添えたりしながら援助していく。	人間関係内容(7)(8) 言葉　内容(2)(4)
評　　価	・友達と一緒に共通の目的に向かって遊びを進めていたか。 ・互いに思いや考えを伝え合うために必要な援助ができたか。	

Ⅵ　研究の成果と課題

1　研究の成果

(1) 幼児一人一人の発達の過程を振り返りながら，その時期に必要な体験を積み重ね，発達過程を通過できるよう環境構成や援助を工夫してきたことで，幼児が時間をかけながらもゆっくりと自分なりに心を解きほぐし，無理なく次の発達過程へ移行していく等，幼児一人一人の育ちを促すことにつながった。　〔V1(4)分析①，②，2(4)分析①，4(4)　分析④〕

(2) 発達過程の振り返りを通して，個々に応じて一人一人が遊びこむ体験を積み重ねたことから，幼児は遊びや作業へこだわるようになり,友達と一緒に共通のイメージや目的に向かって相談したり，工夫したりして遊びを進めていく楽しさを味わうことが出来た。　〔V2(4)分析①，4(4)分析②〕

(3) 教師が必要に応じて，遊びや思い・言葉をつなぐ等，時間をかけて援助していくことで，序々に自分の思いや考えを伝えたり相手の思いや考えを受け止めたりして遊びを進めていこうとする姿が見られた。　〔V2(4)分析②，3(4)分析②〕

(4) 遊びの終わりに振り返りタイムを設けたことで，自分達で課題解決へ向けて意見を出したり，互いの遊びを楽しくするためにアイデアを生み出したりする等,明日の遊びへつながるようになった。　〔V1(4)分析③，2(4)分析②，3(4)分析④，4(4)分析③〕

(5) 遊びの中で，自分の考えを話す，相手の話を聞く，みんなで１つの考えにまとめる等，話し合いが成り立つまでの過程をしっかり捉えて援助していくことで，友達と共通の目的に向かって考えを出し合いながら協同して遊びに取り組むようになった。　〔V1(4)分析②，2(4)分析③，4(4)分析②，③〕

2　今後の課題

(1) 一人一人の発達の過程を振り返りながら幼児理解を深め，友達が好きになる，友達と仲間になる友達と育ち合うという経験を重ねていけるような，環境構成と援助の工夫を今後も継続していきたい。

(2) 幼稚園生活全体を通して，発達過程を通過できるよう職員間の共通理解を図り，幼児に必要な協同する経験の捉えを深めていきたい。

〈主な参考文献〉

西久保礼造著　『改訂保育用語辞典』ぎょうせい　1995 年
国立教育政策研究所教育課程研究センター　『幼児期から児童期への教育』ひかりのくに　2005 年
文部科学省　『幼稚園教育要領解説』フレーベル　2008 年
武藤隆・柴崎正行・秋田喜代美編著　『幼稚園教育の基本と解説』
友定啓子執筆領域「人間関係」フレーベル　2008 年
池田多津美編集兼発行　『幼稚園じほう』　2010 年 10 月号　2011 年 11 月号
兵庫県教育委員会　指導の手引き『人とのかかわりを豊かにする教育の推進』　2010 年
〈www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/.../youtiennsidounotebiki.pdf〉